

# THE Olympic Golf Club



AUGUST 2007 Vol.16

# 日本のゴルフ 大衆化と上質化

～ 二極化の共存 ～

出席者：大西 久光・大川 清  
聞き手：五嶋 雅徳・川島 好彦



五嶋 日本を代表するコース設計家で、日本コース設計者協会の理事長をなされている、日本のプロゴルフトーナメントの先駆者であり、ゴルフ解説として著名な大西さんにご出席頂きました。

## 石川 遼くんの優勝

川島 一番ホットな話題から、石川 遼くんがプロのトーナメントで優勝しましたが、まずこの話題についてお聞きしたいんですが。

大西 先日、ニクラスのメモリアルトーナメントでのミーティングでUSGAやR&Aの偉い人が大勢いたところで「最近、日本で15歳のアマチュアがプロのトーナメントに勝ったよ」というとみんなびっくりしてましたけどね。勝ったこともすごいんですけど、日本のゴルフ界にとってラッキーだったことは、マナーが爽やかであること、特に彼の発言の中に「文武両道」という言葉が出たということ。今の若い人には出ない言葉ですよ。やっぱり女子では宮里 藍ちゃんも爽やかで女子トーナメントが盛んになった。高校野球の斎藤佑樹投手の出現により大学野球が盛り上がっている、そして今度の石川くん、と全員に共通しているのは、「強い」というより「爽やかさ」「マナーの良さ」なんですね。近年、モラルの悪くなった日本の社会なんだけど、どこかで昔の美的な日本を望む潜在意識というのが多くあって人々の共感を呼ぶのだと思います。

先日の関東アマで石川くんを見るためにゴルフを知らない人まで見に行ったということは、多くの人々がゴルフに関心を持って頂く意味でも、これ

から上手に育ってくればいいなと思います。

## ゴルフ規則 第一章 エチケット

川島 技術どうこうというより、昔から求められていた、ゴルフはマナーだという、石川くんのしゃべり方がすごく爽やかで、そんな人が出てきたということで衝撃を与えているんでしょうね。

大西 最近スピーチを頼まれて話すのに必ずゴルフ規則 第1章エチケットの説明をさせて頂くんですが、その時に皆さんも一度よく読んで下さいとお願いするんです。ゴルフの精神とは何かということを知って頂きたい。例えば、宮里 藍ちゃんが人気絶頂なのは強くて可愛いだけでなく、マナーが良いからだと思うんです。

一度、藍ちゃんのお父さんと対談させてもらったんですが、その時に感じたのはやはりこの家庭



だからこそ礼節の精神が育ったのだと思いましたね。お父さんは村長選挙に出て落選して村八分になって、それからは食べるに食べられない程の大苦勞して、練習場の球拾いから始めて子供たちをそこでゴルフを教えて、途中で何遍も死のうと

思ったりした。そういう境遇のなかで子供たちとの絆を深めた。宮里家というのは、ゴルフを通じて家族のコミュニケーションがとれている。

そして、我々はゴルフ規則 第1章のゴルフの精神つまり「礼儀正しさとスポーツマンシップを常に示しながら洗練されたマナーで立ちふるまうべきである」とありますが、この精神に戻るべき時がやってきた、不況がもたらしたのかもしれない、という気がしています。

### いいゴルファーとは？

**川島** ゴルフのマナーや服装が悪いのが蔓延している、といわれていますが、どのように考えていけばいいのでしょうか？

**大西** 例えば、オリンピック GC に来られた人たちがみんな楽しくプレーしようと思えば、自分だけ楽しいゴルフをするのではなく、楽しめるようにみんなで努力しないといけない、みんなが楽しめる状態を維持するためには、みんなで弊害を取り除く努力をする。ですから、会員制倶楽部の場合は、会員が連れてきたゲスト、または紹介したゲストに問題があったらそのゲストに言うのではなく、会員からそのゲストにお話をする。紹介であればゲストの方には事前に倶楽部の利用のお願いや、ドレスコード遵守をお願いします。

エチケット・マナーの悪い人達があそこは煙たいと来なくなってくれたほうがありがたい。そうするとちゃんとした人は、あそこに行く気持ちよくプレー出来るぞと。そのように930万人全体のゴルファーに目を向けるのではなく、上質の20%のゴルファーだけを対象にして、質の向上に焦点をおいて運営すればいいと思います。

**五嶋** 私がゴルフを始めた頃は、エチケット・マナーに厳しくて「ティーグラウンドで素振りするな、煙草吸うな」などと当たり前のように怒られていたのが、バブルの頃から派手になって、質より量の時代になり、エチケット・マナーがないがしろになったという経緯があると思うんですが…。

**大西** これからは、もう一度「質」を目指す時代になったと思います。プロゴルファーの場合も、

今までは圧倒的な強さ求められていましたが、高度成長からポストバブル経済にいたる過程で価値観が変化し、強ければどんな振る舞いをしても許されるそんな時代は終わり、強さの裏側の人格が求められる時代になったのです。

例えば、オリンピック GC にいいゴルファーに来てもらいたい。では、いいゴルファーの定義とは何か？今までの日本では「上手いゴルファーがいいゴルファー」という錯覚があるんです。そうではなくて、ハンディキャップはいくつでもいいのです。要するにゴルフ規則 第1章のエチケット・マナーを守っているゴルファーがいいゴルファーであるということをもっと浸透させないといけないと思いますね。



### 中部 銀次郎との対戦

**川島** 理事長の大川さんや、日本アマを6勝された中部 銀次郎さんと対戦されたとお聞きしましたが、その頃のお話を聞かせて頂けたらと。

**大川** 僕は大西さんとは、西宮 CC であれば確か、関西アマで一緒にまわったんです。

**大西** 昭和30年代の話ですよ。

**大川** そう、も一、ほんとの昔の話ですから、こまかいことは覚えていない。

**大西** 僕は昭和35年から39年までいろんな試合にださせてもらってたんですが、大川さんが日本アマを獲られる少し前だと思いますね。大川さんはえらい強くて、飛んで、曲がらなくて、勝負強い、非常にシユアーな印象を強く持っています。

中部 銀次郎との対戦は、僕が関学のキャプテンをしてる4回生のときのことで。廣野 GC で関西学生がありまして、マッチプレーですけど、

最初は36ホールの予選で銀ちゃんがメダリスト。1回戦が甲南のキャプテンと銀ちゃんと対戦してころっと負けて、次はおまえ関学のキャプテンが負けるわ、といわれてカッカしてでて行ったんですが、1番ホールでダブルボギーかなにかで1ダウンしたとき、体中から汗が泥水のように吹き出ると、不思議なことに人間が変わってしまったんです。それからは、やったことないようなゴルフをしだして4&3で勝っちゃったんです。

銀ちゃんとの対戦の時に不思議な集中状態に入れたことが勝ったことより、僕にとって終生ものすごくプラスになっています。ですから集中力の話をテレビの解説をしだした頃からよくします。ニクラスにどうやって集中力をつくるのか、と何度となく聞いてるうちに彼が引退に近づいてきたときに、「事前の十分な準備が出来ていたときに集中できる」ということを話してくれたんです。天才的な集中力のある人だと思ってたので、とんでもない話がでると思ったんですが、ごく平凡なことですが準備を十分にするのは、大変な努力が必要なことですね。本当の集中状態に入ることが、人間の不思議な才能を発揮する最高の手段でしょうね。



### オリムピックGCのコースの感想

**五嶋** 今日、プレーをなされずにカートからコースを見られたということですがオリムピックGCのコースのご感想をお聞きしたいのですが。

**大西** 世界中でやっぱり良いコースは、用地、つまりその土地で決まるんですが、土地の選び方というのがコース設計家の一番大事な仕事なんです。今ではそんな贅沢なことはなかなか出来ませんが、

ゴルフの面白さというのを出そうと思うと30~40メートルの高低差の用地を選ぶことが第1の鉄則なのです。先程お聞きするとこちらのコースも30メートルの高低差があるということで、高低差がちょうどいいですね。

グリーンもワングリーンでいい位置に配置されていて、各ホール変化に富んでいますね。池も配置されていますし、ガードバンカーも18ホール通じてデザインが揃っています。バンカーの砂がす



り上がってなくて比較的砂の面を平らな状態にしてあり、僕なんかはこのほうが好きですね。ですから難易度の高い戦略的なコースに仕上がってると思いますね。ぜひ、近いうちにまたプレーにお伺いしたいと思います。

### プロゴルフトーナメント

**五嶋** ゴルフ人口が増えて色々な人がゴルフを出来るようになったのは、大西さんの大きな功績だと思います。特にプロのトーナメントに企業冠のトーナメントをプロデュースされたのが、世界的にも大西さんが初めてだとお聞きしましたが。

**大西** その原点は中村寅吉さんにあるんですよ。昭和32年にカナダカップに優勝したとき、僕は関西から飛んで行って観戦したんですが、それから2年後に日本ダンロップに入社、寅さんのところへ週3日位通いダンロップ65を使って下さいとお願いして使ってくれるようになって、たちまち飛ぶように売れて半年後には在庫切れの状態でした。このことにより世界的な功績を残す選手が出るのが、ゴルフが発展する一番の道だと。

そうすると良い選手をつくらないといけない。



大川 清

大西 久光

それには試合をやらないと強くならない。ゲームを積み重ねてピリピリしたプレッシャーの中でやっってはじめて強くなれる訳でして。そして、トーナメントをつくらうと。それで1970年頃に米国のマスターズに観戦に行っ、その圧倒的な規模に打ちしおれてしまっ、これは到底同じ方法では出来ない、別の方法でアプローチしないと。そして、ダンロップの宣伝費を引っぱり出して「ダンロップトーナメント」という冠をつけた試合をスタートさせたんです。

### 今後のゴルフ業界

**五嶋** 日本のゴルフ場は、バブルがはじけてから、ゴルフ場の経営が苦しく、なかなか難しい局面が続いていますが、何かゴルフ場を活性化するビジネス的なことをお聞きしたいのですが。

**大西** 全体のマクロのお話をしますと、なぜ今ゴルフ場業界が不況というのは簡単な理屈で、1990年のバブルの頂点以降にオープンしたゴルフ場が600もあるんです。それまで1800だったゴルフ場が不景気になったにも拘わらず供給し続けて2400まで増え続けた。これが悪くなった一番の原因なんです。

しかし、破綻したゴルフ場を外資が買い取りセミパブリックで運営することにより安価にプレーできるコースが多くなったことや、日本では非常にゴルフ場が作りにくいにも拘わらず2400もできたことは、日本のゴルフ界の財産であると思います。で、たいていの方はゴルフ場が多すぎるといんですけど、多すぎないんです。

今のゴルフ人口930万人が年間ざっと9.4回プレーして、私の試算で9000万人弱のゴルファーが延べでプレーしている、仮に一人が平均2回余計にプレーしたらゴルフ場が足りない状況になる



五嶋 雅徳

川島 好彦

んです。米国では、日本の倍プレーしています。大体、平均で20回している。それは、日本よりプレーフィが安いとか家が近いとかいうことはあるんですが、値段は日本もかなり安くなってきているし、そのゴルフ場の周辺のゴルファーを対象にして考えることによりある程度解決できると思います。全体的にはそういったことであり、ゴルフ場が多すぎることはないと考えます。

**五嶋** ゴルフの活性化は、ゴルフ場が多いけど思ったほど心配する必要はないと。

**大西** これからは、ゴルファーがゴルフ場を選別する時代に入ると思います。少し高くてもいいコースでプレーするのか、プレーさえ出来れば出来るだけ安いコースでプレーするのか。ゴルフ場はどの層のゴルファーをターゲットにするのか、運営を明確にすることが大事だと思います。

あと、会員が倶楽部に何を求めるのかが今までの日本では散漫で固まっていませんでしたが、これからは本当の意味での会員制を目指すゴルフ倶楽部の姿を整理する必要があります。何のために会員になるのか、今までは投資であつたり、ジッターより安くプレーすることだつたりと、金銭的な理由が多かつたのですが、欧米のプライベートコースはゲストよりメンバーが一番高くついているんです。そのコースの経費は会員で割って支払うというのが基本的な考え方ですから。その倶楽部の会員になることの誇りを持つことが一番の理由であるべきですよ。そういった会員の集まりがいい倶楽部といえると思います。

**五嶋** 今日は、こんないいお話を沢山お聞きすることができ大変有意義で参考になりました。本当にありがとうございました。

•大西 久光氏 公式サイト [www.oh-golf.net](http://www.oh-golf.net)  
 •日本ゴルフコース設計者協会 公式サイト [www.jsgca.com](http://www.jsgca.com)

## ゴルフの練習4 [パッティングの感性]



大川 清

**パ**ッティングの良し悪しが、スコアメイクの要となるのはいうまでも無い。パッティングの感性、センスが良くなるとゴルフプレーのセンスが磨かれる。パッティングの上手な人は、共通して普段から多くの時間をパッティングの練習に費やしており、自信を持っている。

ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン、アプローチ、バンカー、パッティングと様々な練習の中で、パッティングの練習といえばラウンド前に10分程度というプレーヤーが大半ではないだろうか？そして、ラウンド後に「今日は、パター良くなかったな。」と嘆く。全てのゴルフの練習を100として、どれだけの時間をパッティングの練習に割いているのか一度確認して見てはいかがでしょうか。

平均して9ホールでパット数18をオーバーするようだと、明らかにパッティングの練習が少ないと考えられる。プロは、1ラウンドでパター数28、アマチュアでもパター数30は練習しだいで可能であります。パッティングの練習においても大切なことは、「パターの芯でボールの芯を打ち出すこと」であります。パターの芯で打ち出され

たボールはラインにしっかりととり、球足の長い安定した転がりをする。例外として、とても早い下りや、曲がりの大きなフックラインは、芯をはずして打つほうが安全な場合がある。カップの両サイドから見てもフックかスライスが読みきれず迷う場合、私はいつもよりテークバックを気持ちインサイドに引き、フォローでアウトに押し出すと傾斜や芝芽の影響を受けにくい転がりの良いボールになるのでストレートラインに狙うようにしています。



パターの形状、アドレス、ストロークとパターに関しては定石がないので、自分のパッティングスタイルが身につくまでは練習時間を多くとるしかないのです。ある程度自信が持てるようになるまでは、パターは替えないほうがよいでしょう。「ゴルフは、パッティングに始まりパッティングに戻る、ゴルフの基本は、パッティングにある」ことを忘れてはならない。

### STROKE

